



## 平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年11月9日

上場取引所 名

上場会社名 コムシード株式会社

コード番号 3739 URL <http://www.commseed.net/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 CTO (氏名) 羽成 正己

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営管理部長 (氏名) 小倉 誠

TEL 03-5289-3114

四半期報告書提出予定日 平成24年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第2四半期の業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	343	△34.2	△172	—	△169	—	△202	—
24年3月期第2四半期	521	△7.7	17	△34.7	14	△45.0	13	△38.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	△5,424.58	—
24年3月期第2四半期	353.22	—

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	441	—	319	—	—	72.4
24年3月期	692	—	521	—	—	75.3

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 319百万円 24年3月期 521百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年3月期の業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	800	△13.7	△250	—	△250	—	△320	—	△8,571.28

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料3ページ「サマリー情報(注記事項)」に関する事項「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期2Q	37,500 株	24年3月期	37,500 株
25年3月期2Q	166 株	24年3月期	166 株
25年3月期2Q	37,334 株	24年3月期2Q	37,334 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項 .....	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
4. 四半期財務諸表 .....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第2四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
(6) セグメント情報等 .....	9
4. 補足情報 .....	10
(1) 販売実績 .....	10
(2) その他 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間には、国内においてiPhone5等新機種導入によってスマートフォンの普及が一層進む中、SNSプラットフォーム向けのソーシャルゲーム市場が引き続き拡大を続けております。一方で平成24年7月にはいわゆる「コンプガチャ」が景品表示法の運用基準による規制対象になり、業界全体としてガイドラインを策定し、消費者保護、市場の健全性を主眼に置いたさらなるシステム改善を行っております。

このような状況のもと、当社ではモバイル端末向けのソーシャルゲームを中心とした事業展開を進めており、当第2四半期会計期間では、既存サービスの拡充に努めるとともに、新規サービスの開発をより一層推し進めてまいりました。また、当社では直接的に「コンプガチャ」問題によって大きな影響を受けるアプリはありませんが、本件を受け、既存・新規サービスともに、より利用者の視点に立ったゲーム内容へのブラッシュアップを実施しております。

以上の結果、当第2四半期累計期間における業績は、従来のフィーチャーフォン向け携帯公式サイト売上の落ち込みと、ソーシャルゲームの新たなサービスに向けた開発費の増加により、売上高は343,108千円（前年同期比34.2%減）、営業損失172,112千円（前年同期は営業利益17,618千円）、経常損失169,261千円（前年同期は経常利益14,738千円）となりました。

また、投資有価証券売却益1,344千円があったものの、減損損失12,027千円と繰延税金資産の全額を取崩したことによる法人税等調整額21,430千円の計上により、四半期純損失は202,521千円（前年同期は四半期純利益13,186千円）となりました。

報告セグメントの業績及び事業におけるサービス分野別の主な取り組みは、以下のとおりであります。

なお、前事業年度より報告セグメントの区分を変更しており、前年同四半期との比較については、前年同四半期の数値を変更後の報告セグメントに組み替えて行っております。詳細は、「4 四半期財務諸表(6)セグメント情報等」に記載のとおりであります。

#### (モバイル事業)

- ① ソーシャルゲームについては、GREE株式会社が運営する「GREE」で展開中のバーチャルホール「グリパチ」については、新規のタイトル投入やイベントの実施などの各種施策により、登録者数が9月末で約50万人となっております。また、「GREE」および株式会社ディー・エヌ・エーが運営する「Mobage」で展開中の「不思議の森のパン工房」については、6月に「GREE」スマートフォン版サービス開始や各種イベントの投入などにより、順調にユーザー数を伸ばしております。しかしながら、全体的には新規タイトルの開発および「グリパチ」スマートフォン版の開発を推し進めたことにより、開発費が増加しております。
- ② スマートフォン関連については、7月よりAndroid OS搭載スマートフォン向けのパチンコアプリ「ミニミニモンスター2」の提供を開始し（8月にはiOS版も提供開始）、9月より新スロットアプリ「めぞん一刻～夏色の風と～」をGoogle Playにて配信開始しました。また、第3四半期会計期間に投入予定の新規タイトルの開発を進めました。
- ③ フィーチャーフォン向け携帯公式サイトについては、ユーザーのスマートフォン移行により、売上が減少傾向であることから既存ユーザーの継続利用に向け、当社オリジナルのパチンコ・パチスロ総合情報サイトである「パチンコ倶楽部」において、パチンコ・パチスロの機種情報やそれらの攻略情報のさらなる充実化に取り組みました。また、メーカーオフィシャルサイトでは、パチンコ・パチスロの新機種導入時にタイムリーな情報提供を行い、サービスの拡充に取り組みました。
- ④ パチンコ店舗向けサービスでは、店舗向けASPサービス（有料店舗情報サービス）のラインナップ拡充、全国店舗への営業体制の強化を行いました。

この結果、当第2四半期累計期間における売上高は327,934千円（前年同期比37.1%減）、営業損失は72,482千円（前年同期は営業利益109,475千円）となりました。

#### (その他事業)

トライアル事業としてスタートしたPC用オンラインゲーム事業では、タイトル「ダークエデン」において、独自および提携による各種広告手法の導入やアイテム販売サイト「ダークエデンマーケット」においての各種販売戦略の試行によって売上の向上に努めましたが、利益の確保には繋がりませんでした。

この結果、当第2四半期累計期間における売上高は15,174千円（前年同期はありませんでした。）、営業損失は14,146千円（前年同期はありませんでした。）となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

①財政状態の分析

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて251,835千円減少し、441,064千円(前事業年度末比36.3%減)となりました。これは流動資産の減少221,283千円と固定資産の減少30,552千円によるものです。

負債は、前事業年度末に比べて49,314千円減少し、121,934千円(前事業年度末比28.8%減)となりました。これは流動負債の減少48,855千円と固定負債の減少459千円によるものです。

純資産は、前事業年度末に比べて202,521千円減少し、319,129千円(前事業年度末比38.8%減)となりました。これは四半期純損失の計上によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前年同四半期と比べ349,921千円減少し、155,260千円(前年同四半期比69.3%減)となりました。

各キャッシュ・フローの状況と主な要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果減少した資金は前年同四半期と比べ288,340千円減少し、166,249千円(前年同四半期は122,090千円の収入)となりました。これは主に売上債権の減少14,144千円、前払費用の減少22,120千円、減価償却費13,860千円、減損損失12,027千円の増加があったものの、税引前四半期純損失179,945千円、前受収益の減少46,475千円により資金が減少したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は前年同四半期と比べ35,088千円減少し、2,871千円(前年同四半期比92.4%減)となりました。これは無形固定資産の取得による支出23,504千円があったものの、投資有価証券の売却による収入26,376千円の増加により資金が増加したことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は前年同四半期と比べ987千円減少し、561千円(前年同四半期比63.8%減)となりました。これはリース債務の返済による支出によるものです。

(3) 業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成24年11月2日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期累計期間の営業損失、経常損失及び税引前四半期純損失に与える影響はありません。

### 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度において営業損失43,464千円、当期純損失87,932千円を計上し、当第2四半期累計期間においても営業損失172,112千円、四半期純損失202,521千円を計上いたしました。また、営業活動によるキャッシュ・フローも前事業年度に引き続きマイナスになっている状況であります。当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

モバイル事業においては、スマートフォン市場の成長と従来のフィーチャーフォン市場の段階的な縮小が進行しており、環境が大きく変化しております。このような環境のもと、当社は、ユーザーの市場移行による影響により携帯公式サイトの課金対象会員数も減少傾向にあることから、これに歯止めをかけるべく事業を推進しつつ、スマートフォン向けアプリの企画開発に注力しております。しかしながら、この市場の変化により引き続き当社の業績と成長も大きく影響を受けることから、早急に対策を講じる必要があります。

当社は、当該事象又は状況を解消するために、下記の改善施策を進めております。

収益面については、平成24年4月よりグリー株式会社が展開する「GREE」で、フィーチャーフォン向けバーチャルホール「グリパチ」の全キャリア対応が完了し、展開市場を拡げてまいりましたが、フィーチャーフォンからスマートフォンへのトレンドが大きくシフトする中、事業モデルについてもスマートフォン向けコンテンツビジネスへのシフトを強化し、経営資源を集中させ、さらなるユーザー獲得の強化を図ってまいります。

コスト管理については、製造原価における社内開発の稼働率を向上して外注費を圧縮し、販売費及び一般管理費においても人件費の削減や広告宣伝費の見直しを進めることで、コストの削減を図ってまいります。

財務面については、第2四半期累計期間において損失を計上し、下半期においても新たにスマートフォン版「グリパチ」の開発費が増加することから、引き続き手元流動性の低下が見込まれます。このため、事業活動を安定的に行う資金の確保に向け、資本政策を含めた新たな資金調達の検討及び交渉を進めてまいります。

これらの改善施策に取り組むことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は、認められないものと判断しておりますので、四半期財務諸表の注記には記載しておりません。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	319,200	155,260
売掛金	123,947	109,802
商品及び製品	7,954	6,937
原材料及び貯蔵品	7,246	5,803
その他	92,404	51,667
貸倒引当金	△19	△22
流動資産合計	550,732	329,449
固定資産		
有形固定資産	40,825	30,575
無形固定資産	29,939	38,960
投資その他の資産		
その他	111,782	81,877
貸倒引当金	△40,380	△39,799
投資その他の資産合計	71,402	42,078
固定資産合計	142,167	111,614
資産合計	692,900	441,064
負債の部		
流動負債		
買掛金	55,818	56,190
未払法人税等	3,101	1,722
その他	78,855	31,007
流動負債合計	137,775	88,920
固定負債		
退職給付引当金	11,538	11,258
役員退職慰労引当金	19,329	19,329
その他	2,606	2,427
固定負債合計	33,474	33,014
負債合計	171,249	121,934
純資産の部		
株主資本		
資本金	568,883	568,883
利益剰余金	△29,877	△232,399
自己株式	△17,355	△17,355
株主資本合計	521,650	319,129
純資産合計	521,650	319,129
負債純資産合計	692,900	441,064

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	521,708	343,108
売上原価	313,978	290,174
売上総利益	207,730	52,934
販売費及び一般管理費	190,111	225,047
営業利益又は営業損失(△)	17,618	△172,112
営業外収益		
受取利息	53	26
業務受託料	—	2,250
貸倒引当金戻入額	—	581
その他	1	1
営業外収益合計	55	2,859
営業外費用		
支払利息	60	8
貸倒引当金繰入額	2,875	—
営業外費用合計	2,935	8
経常利益又は経常損失(△)	14,738	△169,261
特別利益		
投資有価証券売却益	—	1,344
特別利益合計	—	1,344
特別損失		
減損損失	—	12,027
本社移転費用	1,076	—
特別損失合計	1,076	12,027
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	13,661	△179,945
法人税、住民税及び事業税	475	1,145
法人税等調整額	—	21,430
法人税等合計	475	22,575
四半期純利益又は四半期純損失(△)	13,186	△202,521

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	13,661	△179,945
減価償却費	8,525	13,860
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△1,344
減損損失	—	12,027
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	2,875	△581
本社移転費用引当金の増減額 (△は減少)	△6,900	—
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△556	△280
受取利息及び受取配当金	△53	△26
支払利息	60	8
売上債権の増減額 (△は増加)	86,684	14,144
たな卸資産の増減額 (△は増加)	5,666	2,460
仕入債務の増減額 (△は減少)	△44,693	△9,786
前払費用の増減額 (△は増加)	△52,057	22,120
長期前払費用の増減額 (△は増加)	△3,212	677
前受収益の増減額 (△は減少)	151,475	△46,475
その他	△38,433	9,158
小計	123,042	△163,982
利息及び配当金の受取額	53	26
利息の支払額	△60	△8
法人税等の支払額	△944	△2,285
営業活動によるキャッシュ・フロー	122,090	△166,249
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7,341	—
無形固定資産の取得による支出	△214	△23,504
投資有価証券の売却による収入	—	26,376
敷金及び保証金の回収による収入	45,516	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	37,960	2,871
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△1,548	△561
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,548	△561
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	158,502	△163,939
現金及び現金同等物の期首残高	346,679	319,200
現金及び現金同等物の四半期末残高	505,182	155,260

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

当社は、携帯電話等のモバイル端末向けコンテンツの企画・制作・配信と関連するサービスの提供を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益計算書計上額 (注) 2
	モバイル事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	327,934	15,174	343,108	—	343,108
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	327,934	15,174	343,108	—	343,108
セグメント損失 (△)	△72,482	△14,146	△86,628	△85,483	△172,112

(注) 1. セグメント損失 (△) の調整額△85,483千円は、主に管理部門に係る人件費及び経費であります。

2. セグメント損失 (△) は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する事項

当社は、従来モバイル事業の単一セグメントとしておりましたが、前事業年度より当社の取締役会にて、PC用オンラインゲーム事業をトライアルとして実施すべく、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための定期的な検討を行う対象として追加したことで、報告セグメントを「モバイル事業」と「その他事業」に区分変更しております。

なお、当該変更を反映した前第2四半期累計期間の報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益計算書計上額 (注) 2
	モバイル事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	521,708	—	521,708	—	521,708
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	521,708	—	521,708	—	521,708
セグメント利益又は損失 (△)	109,475	—	109,475	△91,858	17,618

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△91,858千円は、主に管理部門に係る人件費及び経費であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「モバイル事業」セグメント及び「その他事業」セグメントにおいて、想定していた収益が見込めないため、事業用資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

当該減損損失の計上額は、「モバイル事業」セグメントにおいて5,500千円、「その他事業」セグメントにおいて6,527千円であります。

## 5. 補足情報

## (1) 販売実績

当第2四半期累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

なお、前事業年度より報告セグメントの区分を変更しており、前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後の報告セグメントに組み替えて行っております。

セグメントの名称	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
モバイル事業	327,934	62.8
その他事業	15,174	—
合計	343,108	65.7

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. モバイル事業による主な販売先は、一般ユーザーであります。

3. モバイル事業は、各携帯電話キャリア及びプラットフォーム提供会社の情報料回収代行サービスを利用して一般ユーザーに有料情報サービスを提供するものであります。前第2四半期累計期間及び当第2四半期累計期間の主要な売上は、次のとおりであります。

相手先	前第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)		当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	
	売上高 (千円)	割合 (%)	売上高 (千円)	割合 (%)
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	218,978	41.9	71,057	20.7
KDDI株式会社	105,233	20.2	69,863	20.4
グリー株式会社	—	—	55,951	16.3

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## (2) その他

特記事項はありません。